

学力向上実践研究 成果報告会

2月22日（火）に学力の向上に向け、地域や学校の実態に応じて教材の開発や指導方法の工夫改善について調査研究を行う「学力向上実践研究」成果報告会を行いました。

学力向上実践研究に取り組んだのは、下関市立川中西小学校、長門市立仙崎小学校、阿武町立奈古小学校、山口市立大殿中学校の4校です。今回は4校の実践の一部を紹介します。（詳しい内容をお尋ねになりたい方は、各校へお問い合わせください。）

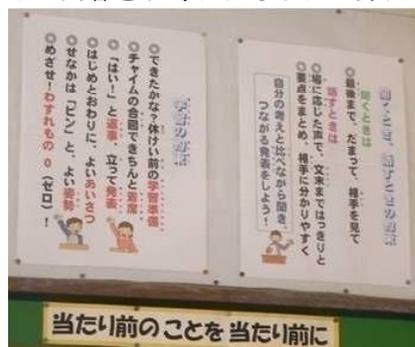
学習環境の整備 から

下関市立川中西小学校

全校統一した取組を継続することで、成果を実感することができました。

下関市立川中西小学校では、落ち着いた学習環境を整備するために、全教職員の意思統一のもと、全校で取り組む内容を教室に掲示し、実践しています。学習規律等は、中学校とも連携をしています。

- ・「学習の約束」
- ・「聞くとき・話すときの約束」
- ・「目指せ！伸びるノート作り」
- ・学習の足あと、学習の仕方や手がかりなどの掲示



（全校体制による組織的な取組例）

落ち着いた学習環境のもと、国語科の授業を通して基礎・基本の定着を図り、一人ひとりの力を伸ばす指導の工夫に取り組んでいます。どの学年でも、分かったことや自分の考えを必ずノートに書くこと、友達と考えを伝え合う（読み合う・話し合う）ことに、発達段階に応じて取り組んだことが成果となって現れ、学習意欲の向上につながっています。

言葉の力をつける

長門市立仙崎小学校

長門市立仙崎小学校では、「言葉の力をつけ、学びを支える習慣づくりに取り組めば、自分の思いや考えを伝え合い、高め合う子どもが育つであろう」と考え、研究を進めています。

- ・みずびタイム 詩の朗読（みずびさんの感性にふれる）
- ・話したい聞きタイム（話す聞くスキル）
- ・読書指導（読み聞かせ、読書貯金カード）

様々な活動を通して、言葉の力をつける基盤づくりを進めながら、3つの視点



（授業の振り返り）

で授業実践に取り組むなど、全校で研究を進めています。

- 視点1 自分の考えや思いをもつ手立ての工夫
- 視点2 自分の考えや思いを交流して、高め合う手立ての工夫
- 視点3 活用する手立ての工夫

話し方・聞き方のモデルづくり
阿武町立奈古小学校

阿武町立奈古小学校では、聞き手に分かりやすい話し方や上手な聞き方の習得をめざして、「話す名人、聞く名人レベル表」を作成し、各



(レベル表)

教室に掲示しています。レベル表は、児童の目標であるとともに、教職員が学校生活や授業の中で、折に触れ、子どもたちを認め励ます指標となり、児童の意識を高めています。



(チャレンジ学習)

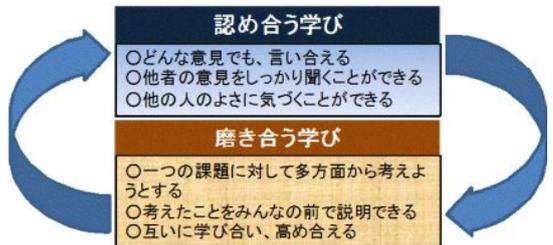
PTA・地域との連携

また、国語・算数の基礎・基本を定着させ、学習意欲を高めるために、毎週月曜日の5校時にチャレンジ学習を行っています。チャレンジ学習は、児童が異学年縦割り班に分かれ、学年ごとに色分けされたプリントを自ら選択し、取り組んでいます。学習プリントの丸付けは、保護者ボランティアが行ってくださるため、教員がゆとりをもって児童の個別指導を行うことができ、成果も上がってきています。

認め合い、磨き合う

山口市立大殿中学校

山口市立大殿中学校では、授業で「認め合う」場面を多く取り入れれば、互いの意見交換が活発に行われ、生徒同士の「磨き合い」、ひいては学習の高まりが一層期待できるようになると考え、各教科で追究課題を設定して授業に取り組んでいます。



生徒による授業評価を実施し、分析・考察を行うことで、それぞれの教科の成果と課題を確認しています。



班の中で自分の意見を説明できました。教えてもらうことも多く、深く考えることができるようになりました。その人のよさにも気付くことができました。

さらに、教員同士がいつでも気軽に他教員の授業を参観できる「授業を見合う会」を設けています。参観する教員は、記録用紙に気付きを記入し、意見交流をしています。今後も「認め合い磨き合う学び」を深化し、一人ひとりが自ら学びを獲得できたと実感できる授業づくりに取り組んでいくことにしています。

学力向上実践研究を行った学校では、児童生徒一人ひとりの状況を把握し、具体的な到達目標を定め、教員の組織的な取組を通して学力の定着・向上を図っています。発表いただいた先生の「**あたりまえの取組を皆で継続的に取り組むことが大切です。**」という言葉が印象的でした。児童生徒の学力の定着や向上に向け、日常的に情報交換を行い、今後も組織的に取り組みましょう。